

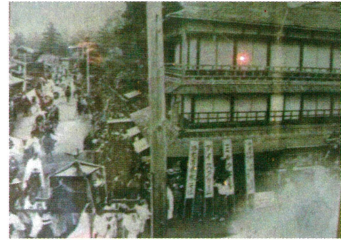
相馬だより～復興支援報告～ 第3回

広島支部 福馬 晶子

本年4月より1年間の予定で相馬市の災害協力派遣職員として働いています。前回に引き続き、被災地相馬の明治以降の歴史と、風土・自然・人について紹介します。

① 明治～昭和初期～震災前

明治時代以降は士族の帰農が進められ、農地及び武家屋敷が一般へ販売されたため、武家屋敷は撤去され、商店等町屋が並ぶ町並みになったようです。対し、海岸部では、明治時代には観光が進み、東洋館という大きな旅館が建つなど、大いに賑わっていたようです。



■中村街道の折り目より大手門までの町並みを俯瞰。



■東洋館海水浴場全図(明治31年7月)。原釜の町並みが一部望める。

その後、海ぎわの原釜では火災の復興で区画整理が行われ(昭和19～26年)、町中では駅前も区画整理が行われ(昭和24～31年・昭和55～平成11年)、近代化と過疎化で江戸時代の建物などはある程度淘汰されてしまったようです。

② 3・11 震災が景観に与えた影響

相馬だより第1回にもお伝えした通り、地震、津波、放射能は甚大な被害を与えました。

相馬においても、3・11の津波で原釜地区、小浜地区、松川地区、細田地区、磯部地区が流されました。元々は、漁業関連、火力発電所関連、観光関連の施設や住宅などが立ち並んでいた町でした。また、松川浦という明媚な景勝地でもありました。現在は、土地の位置を示すために基礎だけが残され、松林やドライブコース、堤防は倒壊し、無残な姿です。洪水により田が塩をかぶり、除塩が済まない地域においては見渡す限り荒野が広がったような光景に変わっています。

人間の暮らす景観、自然景観、観光の景観など、景観を形成していたものが一気に無くなりました。いろいろな視点場から見えていた松林が無くなり、海が直接見えることになり、不安を感じる、殺風景に思う、喪失感を感じるなど、景観の変容に心理的な影響を受けた感想がよく聞かれます。



■松川浦の松林の現在の状況。5m程度ある堤防も穴が開くなど壊れています。



■流された松林をカットし、整頓して並べてあります。

③ 復旧、復興の景観に与える影響

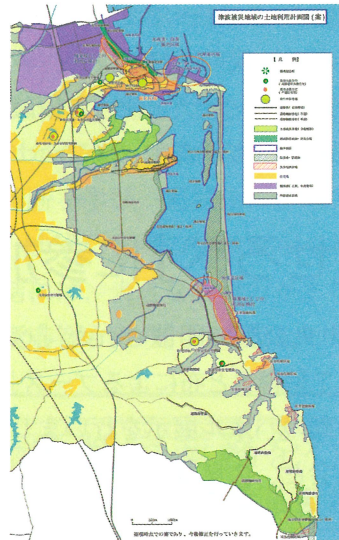
平成24年現時点では、震災・津波のがれきの撤去を行っており、荒れ地にがれきの山ができて、復興時期の景観を形づくっています。



■工業団地に大規模仮設団地を形成。



■磯部の町の状況。家が流された後の基礎が並びます。



■土地利用計画図(案)(相馬市) 灰色が津波で浸水した区域。オレンジ色の宅地と重なっている部分が津波によって建物が被災した部分。赤色の部分が全国に先駆けて災害危険区域に指定(平成23年10月31日相馬市告示第52号)した部分。

また災害危険区域に指定された区域は、用途が決まり、土地の買収が進むまで、無残な基礎が立ち並んだ状況が続くことと思われます。

元は街だった海岸べりは、まだいろいろ検討されていますが、緑地とすることが考えられています。

生活の場だった町が、凄惨たる悲劇に遭い、そのうち緑に覆い尽くされる日がやってくるのは、いろいろな意味があり、考えさせられます。

MONTHLY 建築士 No.78

HIROSHIMA



表紙写真について

こどもセンターのぞみ

●設計監理／有限会社 共和設計

●施 工／山陽建設 株式会社

●所 在 地／三原市

●構造規模／鉄筋造 2 階建

●用 途／1 階—児童発達支援センター

2 階—障害者ケアホーム・ショートステイ

南に道路と河川があり、解放感あふれる敷地での本計画は、各階で用途が異なるため、それぞれの独立性が求められた。

1 階では、通所する子どもたちが楽しく安全に過ごせるよう、また、指導者が全体に気配りできるよう平面計画を心掛けた。2 階では住まいとしての快適さや安らぎに加え、日常の維持管理のしやすさを考慮。各用途の設備（衛生設備、感覚統合設備）も特殊なものは採用せず、規格品の改良で対応した。



外 観



遊戯室

24年度最後の定期講習 受付中です！

日 時：平成 25 年 2 月 20 日（水）

会 場：広島県情報プラザ

会場コード：6D-03

受講申込の受付（郵送可）

広島県建築士会本部（広島市中区千田町 3-7-47-5F）

受講申込書の配布：HP からダウンロードできます。

配布場所 広島県建築士会本部・福山支部

広島県建築士事務所協会

＊ 21 年度（H 21 年 4 月～H 22 年 3 月）に受講された方は、2 回目の講習になります。

＊新しく建築士登録をされた方（21 年度＜H 21 年 4 月～H 22 年 3 月＞登録）で、設計事務所の建築士として登録している方は、この 24 年度中に 1 回目の受講義務があります。（以後 3 年度ごとに受講）

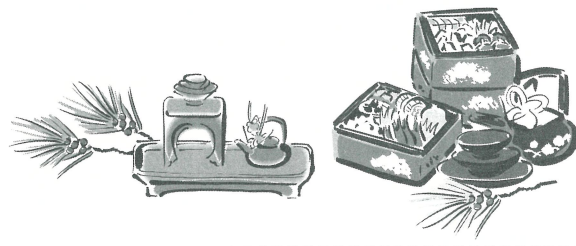
＊設計事務所の建築士として登録している方は、3 年度ごとに「定期講習」を受講することが義務付けられています。

＊「定期講習」は「管理建築士講習」とは別のものです。「管理建築士講習」を受講して管理建築士として登録されている方も、「定期講習」は受講しなければなりません。

年末年始の業務について

平成 24 年 12 月 29 日（土）～平成 25 年 1 月 6 日（日）まで事務局はお休みさせていただきます。

平成 25 年 1 月 7 日（月）から通常業務となります



CPD認定プログラム(12月～2013年2月の広島県内実施分)

11 月 14 日現在

日 時	プログラム名	単 位	主 催	連絡先
12/5	省エネルギー住宅研究セミナー	3	カナダウッド	03-5401-0533
12/6	被災建築物応急危険度判定士講習会	3	広島県建築士会	082-244-6830
12/6	コンクリート構造物の寿命をのばすには	6	インターウェーブ	099-812-0677
12/7	ここが知りたい勉強会「クリーンルーム工事他」	2	日本建築積算協会	082-221-9759
12/7	長寿命化リフォームセミナー（事業者編）	3	住宅リフォーム推進協議会	03-3988-1175
12/8	「建築積算士」更新講習	4	日本建築積算協会	03-3453-9591
12/12	総合評価落札方式技術提案書（施工計画書）作成セミナー	4	建設情報化協議会	03-5294-6200
12/12	「最新のリノベーションの事例」について	2	広島県建築士会広島支部	082-244-6836
12/14	平成 24 年度 公共建築工事の積算講習会	5	経済調査会	03-3542-9291
12/14	建築セミナー「集住体」のこれから 一集まって住むー	2	広島県建築士会呉地区支部	0823-25-0230
1/17	施工管理者等のための足場点検実務者研修 in 広島 第 3 回	4	建災防広島県支部	082-228-8250
1/18	建設工事実務講習会	6	日本建築協会中国支部	082-232-6471
1/24	今こそ現場代理人!!できる現場代理人養成!!建設マネジメントスキルアップ	6	インターウェーブ	099-812-0677
1/28	木造住宅設計検定 3 級	7	木造住宅デザイン研究会ユア・ホーム	03-3373-5044
1/28	木造住宅架構検定 3 級	7	木造住宅デザイン研究会ユア・ホーム	03-3373-5044
1/29	木造住宅設計検定 3 級	6	木造住宅デザイン研究会ユア・ホーム	03-3373-5044
1/29	木造住宅架構検定 3 級	6	木造住宅デザイン研究会ユア・ホーム	03-3373-5044
2/20	平成 24 年度 建築士定期講習（広島）	6	広島県建築士会	082-244-6830
2/27	新 総合工事業者のためのリスクアセスメント研修 第 3 回	7	建災防広島県支部	082-228-8250

安全で安心な住まいづくりをサポートします。

> 事業内容 ① ② ③ ④

フラット35適合証明業務

住宅金融支援機構と提携した金融機関の「長期固定金利」による住宅の取得を支援するため、新築住宅及び中古住宅の適合証明業務を行います。

○ **通常** …住宅金融支援機構が定めた技術基準に適合しているか検査を行います。
○ **優良** …バリアフリー性能、耐久性能等が一定レベル以上の住宅には金利の引下げが受けられます。
○ **中古** …中古住宅（一戸建て・マンション等）の技術基準に適合しているか検査を行います。
○ **賃貸** …賃貸住宅（ファミリー対応・高齢者対応）の技術基準に適合しているか検査を行います。

指定確認検査機関・登録住宅性能評価機関
株式会社 広島建築住宅センター
本社／〒730-0013 広島市中区八丁堀15-10 TEL (082) 228-2220 FAX (082) 228-2231
営業所／〒720-0034 福山市若松町8-22 TEL (084) 928-3979 FAX (084) 928-3974 | www.hkjc.co.jp

株式会社 **ティーエス ハマモト**

一級建築士事務所 ISO9001 認証取得

大規模修繕工事
各種環境対応事業
調査 診断 設計 施工

〒731-0135 広島市安佐南区長束 4 丁目 16-2
TEL 082-238-1511 FAX 082-238-1513

指定確認検査機関
(中国地方整備局長指定第1号)

登録住宅性能評価機関
(中国地方整備局長登録第5号)

登録建築物調査機関
(中国地方整備局長登録第1号)

ハウスプラス中国住宅保証株式会社

〒730-0042 広島市中区国泰寺町 1 丁目 3 番 32 号
TEL：082-545-5607(代表) FAX：082-545-5608

●ひろしま文化都市フォーラム2013 「ひろしまの都市格と暮らし」-4

広島支部

これまで3年かけて、「ひろしまの都市格の暮らしを考える」と題したフォーラムを開催してきました。江戸時代からの広島の城下町の歴史や生活文化、また「学都」「軍都」と呼ばれた時代、さらに戦後復興のまちづくりと暮らしなどを振り返りながら、参加者と共にひろしまの都市としての性格や品格とは何か？について考えてきました。今年度はこの流れを踏まえ、これからのひろしまの将来像に向けて、全米で最も成功した都市再生と言われるポートランドの事例を学びながら、さまざまな立場のコメンテーターと共に、次世代の都市づくりについて考えたいと思います。

●第1部

「ポートランドにみる
環境先進都市のつくりかたとつかいかた」
吹田良平氏による講和及び質疑応答
(13:30～15:15)

●第2部

「2045年を目指した広島の
ソーシャルビジネスとエリアデザイン」
4名のコメンテーターによるトークセッション
(15:30～17:30)

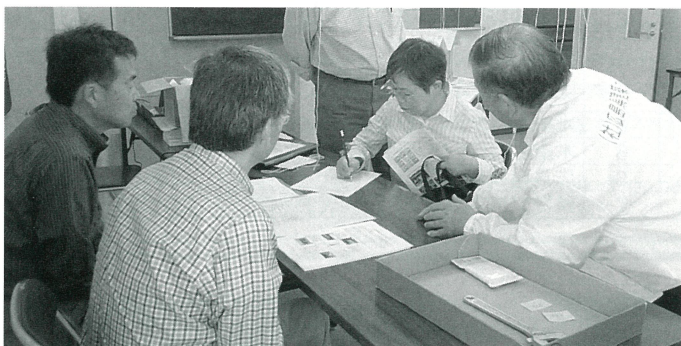
日 時：2013年1月26日(土) 13:30より
(会場受付：13:00より)

場 所：広島市まちづくり市民交流プラザ
北棟6階「マルチメディアスタジオ」

地域だより 安心住宅相談会（おのみち福祉まつり）開催

尾道支部 事業委員会住宅部会

10月21日(日)、尾道市総合福祉センターにおいて開催された「おのみち福祉まつり」の中で、住宅相談会を行い、パンフレットの配布・耐震模型の実演・耐震関係のビデオ上映等を行いました。これは平成19年より、耐震等に関する啓発を目的として、尾道市建築指導課と合同で行っているものです。



尾道市では、今年度も耐震診断費補助事業をしており、尾道支部はその耐震診断費補助の希望者募集を行うなど、積極的に呼び掛けに協力しております。この日も耐震模型を展示して、筋違の有無での建物の耐震性の違いを説明し、耐震に対しての広報活動を行いました。また、尾道市火災予防条例による住宅用火災警報器の設置の必要性等についての啓発及びアンケート調査も行いました。

福祉まつりの1部として開催したこともあり、子どもからお年寄りまで、1,000人を超える方に来場して頂き



ました。今年で6回目ということもあり、まつりの1部として定着した感もあります。しかし反面、来場者の方々の耐震に対する関心がまだまだ低いといった感じを受けました。来年は今年以上に、地元住民に貢献できる工夫をして住宅相談会を開催していきたいと思っています。



地域だより 香川のミュージアム巡り

広島支部 水守 寛敏

10月13日(土)、県外見学会(香川県)を開催した。日本で一番面積の狭い県であるが、美術館をはじめ、優れた建築物は豊富である。

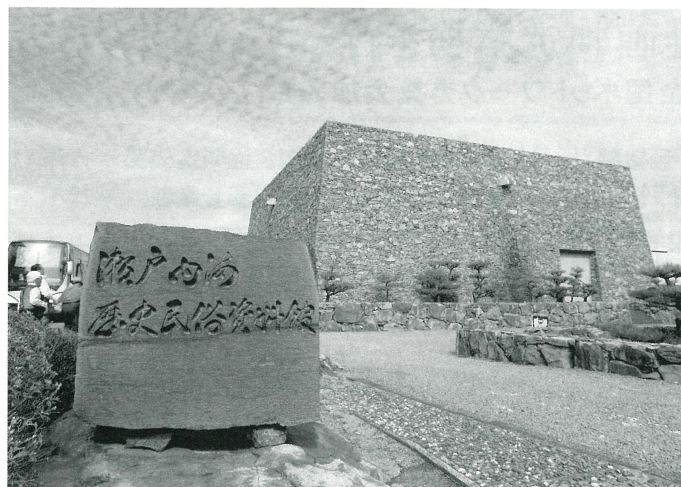
(1) 香川県立東山魁夷せとうち美術館



本美術館は、日本画の巨匠「東山魁夷」の版画作品を中心に約280点が所蔵されている。東山魁夷が塗装色の提案をした瀬戸大橋のたもとに位置し、祖父の出生地である櫃石島を望み、海側に大きく視界が開けたロケーションとなっている。設計者は美術館設計のスペシャリスト「谷口吉生」。夫人より寄贈された版画作品の展示公開のための施設として構想され、2003年に着工し、2005年4月に開館した。アプローチは戦後の代表作「道」がイメージされ、眺望の良いカフェレストランとのつながりは、設計者のこの美術館に対する想いを感じ取れた。

(2) 瀬戸内海歴史民俗資料館

本資料館は高松市五色台にある人文系博物館で、国の重要有形民俗文化財や瀬戸内海に関する資料を約13万点所蔵・展示し、瀬戸内海域の歴史・文化を紹介してい



る。設計は山本忠司氏(香川県建築課)で、1974年度日本建築学会賞等を受賞し、公共建築百選にも選ばれている。しかしながら、竣工から約30年が経過し、展示室に入るシャッターは錆ついていた。屋上から眺めることのできる瀬戸内海の遠景は、島々が点在していて眺望は抜群である。瀬戸内海に満ちている環境と一体になって建築物全体が芸術になるよう、設計者には促される地域である。

(3) イサム・ノグチ庭園美術館

イサム・ノグチは20世紀を代表する彫刻家で、モニュメント・庭や公園などの環境設計、家具や照明のインテリアから、舞台美術までの幅広い活動を行った。1956年に初めて庵治石の産地である香川県牟礼町を訪れたノグチ氏は、1969年からこの地にアトリエと住居を構え、以降20年余りの間、ニューヨークを往き来しながら制作に励んだ。ノグチ氏は、この地が未来の芸術家や研究



者、芸術愛好家のためのインスピレーションの源泉になることを強く望んでいたことから、ノグチ氏の遺志を実現するため、1999年開館した庭園型の美術館である。150点余りの彫刻作品だけでなく、展示蔵や住居、更には晩年制作した彫刻庭園など、作品などが地域全体に溶け込んでおり、ノグチ氏の功績がアーカイブされた空間となっている。

今回は「ミュージアム巡り」がテーマであったが、瀬戸内の豊かな環境に融合する建築を探す旅でもあった。創エネルギー等への転換だけではなく、自然と調和したデザイン、健康で快適な居住空間を提供していくことは、建築士として必須の命題である。

地域だより 淡路・神戸研修見学会

三原 三原支部 森田 康資

11月11日に、淡路市・神戸市への研修見学会を行いました。当日は小雨が降る肌寒いあいにくの天候でしたが、全て屋内の見学だったため、ほとんど支障はありませんでした。

まず最初の目的地である淡路島に建つ、安藤忠雄設計の「ウエスティンホテル」へ向かいました。このホテルは淡路夢舞台の中の1つで、ダイナミックな斜面を効果的に使用した地上階建の壮大なホテルです。曲線的なフォルムの中にシャープさが散りばめられており、「環境創造型」プロジェクトとして建設された、世界でも類を見ないものです。またユニークな家具も置かれており、インテリアも楽しむことができました。

その後、北淡震災記念公園で野島断層保存館を見学。改めて地震大国日本、東南海地震が間近に迫っている緊



野島断層保存館

層深まりました。

最後に神戸市内の竹中大工道具館に行き、古くから培われた大工・左官等の道具の数々と、卓越した建築技術の素晴らしさに触れました。当日は茶室の構造模型の展示もあり、数奇屋建築の見事さを堪能できました。1日中居ても飽きない空間で、地元にはない展示・現象・歴史を学ぶ有意義な研修見学会になりました。



竹中大工道具館

迫感に畏怖しました。地震の破壊力や、地盤のずれやひずみの大きさを目にできたことで、地盤への意識や免震・避難経路等に関心が

地域だより 木造住宅耐震改修セミナー

県北 県北支部 小又 正文

10月8日、「木造住宅耐震改修セミナー」を開催し、約60名の参加がありました。講師には木造住宅耐震改修推進研究所・所長の稲毛正信氏をお迎えし、「アナタの家は大地震で倒れる」と題してご講演いただきました。特にポイントとなるのは、「震度7での倒壊率は大きい建物ほど大きくなる」「新耐震以降はつぶれることはない」「耐震改修をすれば、メンテナンス次第で100年住宅になる」ということです。改修費用も思うほどはかからないので、



木造の耐震改修は是非やっていただきたいとの提言でした。

稲毛氏は、神戸市役所で市営住宅の設計などを担当されていましたが、1995年の阪神淡路大震災で被災され、木造2階建ての自宅の全壊によりご子息を亡くされました。建築のプロでありながら家族を守れなかったという悲痛な経験から、耐震診断を学び、退職後に各地で耐震化の重要性を語られています。実際の体験からくる「耐震化語り部」としての話には、大きな説得力がありました。講演終了後には質疑応答もあり、有意義なセミナーとなりました。

木造の耐震改修は是非やっていただきたいとの提言でした。



無知ほど恐ろしい

既存建築物の耐震診断・改修計画判定業務を行っています

(既存建築物耐震診断・改修等推進全国ネットワーク委員会加入)

- 指定確認検査機関
- 登録建築物調査機関
- 住宅瑕疵担保責任保険業務
- 住宅エコポイント関連業務
- 登録住宅性能評価機関
- 適合証明業務(フラット35)
- 調査診断業務(耐震診断等)

- 指定構造計算適合性判定機関
- 長期優良住宅認定審査業務
- 耐震診断判定業務

URL <http://www.jesupport.jp/>

皆様に、より良いサービスの提供に努めてまいります。

株式会社 ジェイ・イー・サポート

代表取締役 石山 講

本社 〒730-0029 広島市中区三川町7-1 SK広島ビル4F

TEL:082-546-1378 FAX:082-249-7190

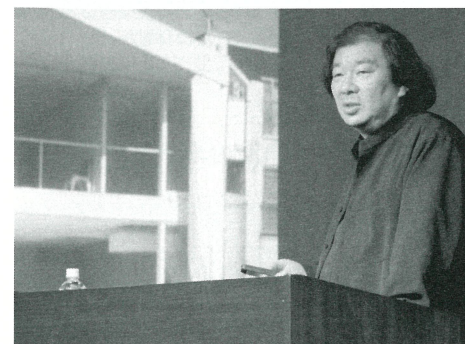
e-mail: mail@jesupport.jp

支店:東京・札幌 営業所:呉

公開まちづくりセミナー2012

建築家 坂茂 講演会「作品づくりと社会貢献の両立をめざして」

事業委員会 藤井 秀幸

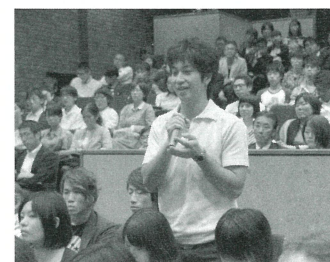


10月11日、広島YMCA国際文化ホールで、建築家の坂茂先生をお迎えして講演会が行われました。冒頭の自己紹介では、建築家としての役割に疑問を持ち、新しい建築家像を目指していると語られました。地震で建物が崩れ、人が死ぬなど、人災ではないか？建築家が責任を持って社会の役に立っているのだろうか、と問いかけます。

まず、今までの仕事をスライドで紹介されました。家具を構造体として使う家、「壁」を大胆にはためくカーテンで表現したカーテンウォールの家など、独特の視点で外部との一体感を持つ住宅を実現。都市の商業ビル、コンドミニウムなどもシャッターをファサード全面に採用して光をコントロールする、「街と一体になるデザイン」でランドマークを創出されています。最近の代表作であるフランス・メス市の美術館は、シンボルとなる六角形を構造や平面計画に取り入れ、シャッターでオープンスペースを広場として開放するなど、氏の感性とコンペ戦略の一端を紹介して頂きました。コンテナを使った仮設美術館の展開なども興味深いものがあります。コンテナ

は入手しやすく、万国共通でリユース可能な材料とのこと。解体後のゴールまでがプロジェクトです。

続いて、来場者にとって特に関心のある被災地での活動紹介。1980年、ルワンダ難民キャンプでの提案は予算が1軒当たり50ドルしかなくて実用性に欠けたそうです。紙管を使用するアイデアはトルコ、インド、中国、神戸、ニュージーランド、ハイチなどで実現化。東日本大震災でも被災者住宅の建設活動をされています。現場のオペレーションの問題点を指摘し、解決策を提案。これは建築士の皆さんが現場でされていることですが…。



坂氏は「何が必要とされているか“現地”で情報を集め、提案することが重要だ」と語ります。その場所で可能なことを見極め、経済的なことも重要な条件です。自分で動き、ヒントを得ながら賛同者や資金を集める、坂氏の被災者支援活動。若いスタッフやボランティアたちと国境を越えて活動を継続する“行動力”と“ひらめき”に感激しました。



いスタッフやボランティアたちと国境を越えて活動を継続する“行動力”と“ひらめき”に感激しました。

国際交流「ぺあせろべ」に参加して

10月28日、広島市中区中央公園で開催された「ぺあせろべ」に、「塩ビパイプ+T型継手と布によるブース」を作り、建築士がかかわる活動のパネル展示を行いました。今回は建築士会事業委員会と、広島支部青年・女性部会との初の共同出店です。

坂茂先生が避難所に提供された被災者のためのパーティーション「紙管構造による仮設間仕切りシステム」をお手本に、入手しやすい材料と簡単に組み立てられるシステムの体験版として作成しました。展示内容は—

1. 坂氏が日本・世界各地で行ってこられた活動の紹介
2. 仮設住宅—被災直後の状況と改善提案
3. 被災地のまちづくり—事例紹介と提起

反省点は、100φのパイプは頼りなく見えるとの来

場者の感想があったことと、風で傾き、屋外用の補強が必要であること。2mを超える高さではなく、目の高さ程度が親近感のあるスケールになること。風の影響のため、高さを1/2にした際には子どもたちに好評でした。

